

Arthuriana Japonica: Newsletter No. 38

November 2025

国際アーサー王学会日本支部会報
Société Internationale Arthurienne Section Japonaise

目次

I. 2024年度年次大会報告	1	司会： 横山 安由美
年次大会プログラム	1	研究発表 1 フェニスの墓、あるいは驚異的建造物 武藤 奈月（ソルボンヌ大学大学院博士課程修了）
総会議事録	2	
研究発表要旨	3	司会： 一條 麻美子
講演要旨	4	研究発表 2 ベルヴェデーレ宮殿美術館所蔵の中世コレクションの展示について 渡邊 徳明（日本大学）
II. 電子化について	5	
III. 学会メーリングリストについて	5	
IV. 会計からのお願い	5	
V. 学会サイトについて	5	司会： 小宮 真樹子
VI. 第38回年次大会について	6	研究発表 3 頭韻詩『アーサーの死』(the alliterative <i>Morte Arthure</i>) 再考—Clarenteの変容と Mordred
VII. 研究発表・シンポジウム企画募集	6	不破 有理（慶應義塾大学）
VIII. 会員名簿に関するお願い	6	コメントーター（小栗栖等）
IX. 文献情報	6	
英文学	6	*休憩（妙遊：ケルティックハープ演奏『バルザス=ブレイス』より）
独文・北欧文学	7	
仏文学	8	
中世ラテン・イタリア文学・その他	9	

I. 2024年度年次大会報告

日本支部の2024年度年次大会は、下記の通り開催されました。ご参加いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

[日時] 2024年12月14日（土）13:00より

[場所] 成城大学（721教室【7号館2階】）

[大会費] 1,000円（学生会員無料）

[懇親会費] 6,000円（学生会員3,000円）

年次大会プログラム

*開場（12:00）

開会の言葉

支部長 高名 康文

司会： 小川 佳章

講演

騎士道物語のパロディとしての『ドン・キホーテ』

斎藤 文子（清泉女子大学）

*会員研究動向・情報交換フォーラム（17:10～）

*支部総会（17:30～）

今回も多くの方にご出席いただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

（文責：岡本広毅）

総会議事録

* 報告事項

(1) 2024年度の活動について

- ・庶務報告（岡本広毅）

国際アーサー王学会本部の新体制について報告があつた。

President : Raluca RADULESCU (Bangor)

Vice-President : Fabrizio CIGNI (Pisa)

Secretary : Julie HUMAN (Kentucky)

Treasurer : Isabelle ARSENEAU (Montreal)

Editor of JIAS : Richard TRACHSLER (Zurich)

BIAS Bibliographer: Nathanael BUSCH (Marburg), and Jelmar HUGEN, assistant for the beginning (Utrecht)

Digital Supervisor: Yannick MOSSET (Toulon)

- ・国際大会報告（リリス・アイヴァジョン会員）

第27回国際大会(2024年7月12日～18日、Aix-en-Provence)について報告があり、現地の様子を撮影した写真がスライドで紹介された。

- ・研究紹介（岡本広毅）

Journal of the International Arthurian Society 最新号に掲載された不破有理会員の論文を紹介。日本支部における英語関連の蓄積と近年の動向が精緻にまとめられている旨が報告された。

- ・本部との連絡事項（長谷川千春会員）

国際本部とのやり取りとして、以下2件の新規提案が紹介された。

1. 博士課程在籍者・若手研究者による交流企画

支部を越えて交流するためのフォーラムおよび年1回のオンラインイベントを開催する案。

2. 中等教育教員を対象とした部門の設置計画（ラドレスク会長発案）

教員部門をワーキンググループとして発足させ、教育実践や地域イベントに関する研究を推進するとともに、中等教育教員や独立研究者のIAS/IAG/SIA参加を奨励することを目的とする。

(2) 書誌活動報告

日本支部における業績は、2024年度も充実したものとなりました。毎年夏に業績報告をお願いしていますが、今後も一層のご協力をお願いいたします

ます。また、非会員の業績も掲載可能ですので、積極的に情報をお寄せください。

(3) 学会サイト「アーサー王伝説解説」について

複数の記事の作成が進行中で今後掲載予定です。

(4) 本部の書誌データベース

書誌データベース（BIAS）のオンライン化が現在進められています。

* 審議事項

(1) 2024年度決算報告（2023年12月1日～2024年11月30日）

会計担当幹事の小川佳章会員より、会計収支決算が報告され、承認されました。

収入

収入の部

項目	収入額
年会費 (86件@3000円)	258,000
寄付金	0
入会金	3,000
賛助会員費	5,000
小計 1	266,000
【支部大会関連収入】	
大会参加費(31名@1000円)	31,000
懇親会費(21名@6000円+3000円)	129,000
小計 2	160,000
2023年度からの繰越金	793,763
普通預金口座利子	59
総計	1,219,822

支出

支出の部

項目	支出額
学会誌刊行・発送費	207,115
ホームページ関連費用	10,052
事務用品代・雑費	9,049
通信費	18,064
不明金	60,295

	小計 1	304,575
【支部大会経費】		
学生アルバイト代	14,000	
懇親会費用	130,000	
飲み物・お菓子・雑費	11,311	
小計 2	155,311	
2025 年度への繰越金	759,936	
総計	1,219,822	

(2) 2025 年度予算案提出（2024 年 12 月 1 日～2025 年 11 月 30 日）

続いて 2025 年度予算案が提出され、会員の承認を受けました。

収入

項目	収入額
年会費（会員数 74 名 @3,000 円）	222,000
寄付金	0
賛助会員費	5,000
	0
小計	227,000
【支部大会関連収入】	
大会参加費(30 名 @1,000 円)	30,000
懇親会費(25 名 @6,000 円)	150,000
小計	180,000
2024 年度からの繰越金	759,936
普通預金口座利子	50
総計	1,166,986

支出

項目	支出額
学会誌刊行・発送費	200,000
ホームページ関連費用	10,000
事務用品代・雑費	5,000
通信費	5,000
小計	220,000

【支部大会経費】	
学生アルバイト代	20,000
懇親会費用(25 名 @6,000 円)	150,000
小計	170,000
2026 年度への繰越金	776,986
総計	1,166,986

(文責：岡本広毅)

(3) BIAS で扱う文献について

高橋勇会員より、BIAS で扱う文献に近現代の研究も含める提案がありました。英語圏では中世の文献が極端に少なく、アメリカではすでに近現代作品の扱いが許容されている現状もある。近年の Modern Arthuriana の拡大に加え、発信力の向上や新規会員の獲得という観点からも、この提案が有意義であると判断され、審議の結果、本提案は承認されました。

(4) 学会サイトの刷新について

田中一嘉会員より、現行サイト（HTML 版）の WordPress 版への移行と「事典編」ページの新規開設が提案され、審議の結果、これらの提案はいずれも承認されました。

(5) 新入会者承認について

以下 1 件の入会が承認された。

中西志門氏（推薦人：渡邊徳明・青木三陽）

(文責：岡本広毅)

2024年度年次大会研究発表要旨

1. フェニスの墓、あるいは驚異的建造物

武藤奈月

クレチアン・ド・トロワの『クリジエス』（1176年頃）は、トリスタン・イズー物語との関係や仮死のテーマについて、これまでに数多くの研究の対象となってきた。作中で建築家ジャンが建てた墓は、仮死状態のフェニスがクリジエスの恋人として生まれ変わるために重要な場である。本発表では、墓や墓地そのものに焦点を当て、同時代や後世の物語との比較検討を行いつつ、フェニスの墓の新規性を示すことを目的とした。

フェニスの埋葬の場面は、聖書におけるイエスの埋葬との関連性を示している。同時に、古代物語である『エネアス物語』（1155年から1160年頃）やクレチアン自身の『聖杯の物語』（1182年頃）の詩行をも想起させる。また、フェニスの埋葬後、クリジエスは恋人を助けるために武装して墓地へと向かう。墓地は、同時代の作品を継承し、描写される場でありながら、冒険の場としても現れていることが読み取れる。さらに、『荷車の騎士』（1177年から1181年頃）や『散文ランスロ（ランスロ本体）』（1220年から1230年頃）、『危険な墓地』（1230年から1250年頃）といった作品を比較すると、墓地は徐々に危険な冒険に遭遇する場へと変容していったと考えられる。

2. ウィーンのベルヴェデーレ宮における中世コレクションの展示について

渡邊徳明

ベルヴェデーレ美術館の上宮(Oberes Belvedere)と下宮(Unteres Belvedere)の中世展示の方法とコンセプトについて、歴史的背景に触れながら解説した。ベルヴェデーレ宮はハプスブルク家に仕えた名将として名高いサヴォイ公子オイゲンによって18世紀前半に建設され、ユネスコの世界文化遺産に登録されており、中世から現代まで、800年にわたるオーストリア美術のコレクションを誇る美術館である。1903年に美術館として開館し、今日ではとりわけクリムトの絵画コレクションで世界的に知られる。この美術館は第二次大戦後の1953年に中世コレクションの所蔵品の展示も開始した。この発表では、ベルヴェデーレ宮が18世紀後半に美術館として使われた時代的な背景と、それに至るまでのハプスブルク家の文化政策についても論じた。とりわけハプスブルク家には一方でオーストリアの領主として、他方で超地域的な帝国の主としての二つの側面があり、それは美術コレクションに関する行政的な方針にも影響を与えた。そのような背景も踏まえ、ベルヴェデーレ宮における中世美術コレクションの位置づけについて論じた。

3. 頭韻詩『アーサーの死』(the alliterative *Morte Arthure*) 再考—Clarenteの変容とMordred

不破有理

頭韻詩『アーサーの死』は15世紀初頭のゾーントン写本に残存する作者・制作年未詳の作品である。本発表ではモードレッドの仇名マルブランシュを中心に頭韻詩の文学的系譜と社会的な背景を探った。

マルブランシュとは『狐物語』と『新版ルナール』の狐ルナールの長男の名である。『新版ルナール』では狐は反キリストの背信者として活躍するが、頭韻詩にも「赤い丸盾」を持つ反キリストの騎士レイナードが登場する。レイナードとはルナールの英名である。『新版ルナール』の写本には興味深いことに「赤い丸盾」を持つ戦う狐が細密画に残されている。視覚的な類似点のみならず、作品が制作されたフランドル地方はエドワード三世にとって政治・経済・文化の重要な拠点で、頭韻詩にも地名が言及されている。さらに同地域と関係が強い『ペルスフォレ』にもマルブランシュは悪しき一族として登場する。アレクサンダーがブリテンを文明化する際の抵抗勢力であり、アーサー王先史としての語りの構成は頭韻詩に通じる点も多い。このように、これまで指摘されていない大陸の文化的影響と脈絡を考慮することにより、頭韻詩の解釈の重層性にさらに斬りこめる可能性を提示した。

講演

騎士道物語のパロディとしての『ドン・キホーテ』

斎藤文子

レコンキスタの戦闘が長く続いたイベリア半島では、他のヨーロッパ地域で広まっていた中世騎士道物語が入ってくるのが遅れたが、1508年にスペインで出版された『アマディス・デ・ガウラ』が騎士道物語の流行に火を付けた。

それからおよそ100年後の1605年、序文で「この書物のねらいは騎士道物語が世間と大衆のあいだで享受している権勢と名声を打倒すること以外

「ない」とうたった『ドン・キホーテ』がマドリッドで刊行された。作者セルバンテスは当時の騎士道物語を、荒唐無稽で真実味がなく、しかも書き方がずさんだと批判していた。そこでヒーローとはほど遠い50歳の男が、巨人も魔物も魔法使いもないスペインの現実世界の中で冒險を求める旅に出るという、騎士道物語のパロディ小説が書かれたのである。

1615年に出版された『ドン・キホーテ』後編では、前編の読者の反応を取り入れて物語の構造を変え、関係のない挿話を減らし、話をドン・キホーテとサンチョの言動に集中させた。その結果、常に行動と共にしていた2人は互いに影響を与え合い、物語を通して人間的に変化、成長していくことになった。このパロディ小説はのちに西洋近代小説の元祖と位置づけられるようになった。

II. 電子化について

国際アーサー王学会日本支部では、会員の皆様への連絡手段に、メーリングリスト等の電子媒体を活用しております。ただし、ご希望の方へは郵送での連絡を続けております。まだご回答いただいている場合、事務局（office@arthuriana.jp）までご連絡くださいますようお願いいたします。

III. 学会メーリングリストについて

現在、学会員用メーリングリストは間接投稿とさせていただいております。投稿を希望する場合、まずは事務局まで文案をお知らせください。役員で確認後、配信いたします。

また、希望の方には日本支部よりメールアドレスを新規発行いたします。この件も事務局までご連絡ください。

IV. 会計からのお願い

2026年度分会費（ならびに2025年度以前の未納分）の納入をお願い申し上げます。会費は別送の「払込取扱票」（過去にインターネットバンキングでお振込みいただいた会員には、2024年度より「振込取扱票」をお送りしておりません）にてお

支払いいただくか、下記口座に直接お振込みください。

〈郵便振替口座番号〉

加入者名：国際アーサー王学会日本支部
ゆうちょ銀行口座番号：00250-6-41865

〈ゆうちょ銀行以外の金融機関からの振込み〉

加入者名：国際アーサー王学会日本支部
金融機関：ゆうちょ銀行（コード：9900）
店名：〇二九（ゼロニキュウ）店（店番：029）
預金種目：当座
口座番号：0041865

年会費は3,000円です。また新入会員の入会時には入会金3,000円を頂いております。新規入会希望者をご推挙いただく際には、希望者にその旨お伝えくださいますようお願いいたします。

日本支部では、一口1,000円からの寄付金を隨時募集しております。ご寄付いただけます場合、「寄付〇口」とお書き添えの上、同封の払込票をご利用のうえ年会費とともにお振込みください、直接口座にお振込みください。皆さまの温かいご支援をお待ち申し上げます。

【お知らせ】2019年度以降、当学会で進めている電子化に伴い、年会費納入もゆうちょ銀行口座への振込みのみとなります。年次大会会場での現金納入はご遠慮いただけますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。また、会費納入が5年連続して確認できなかった場合、退会扱いとさせていただきますのでご留意ください。

（会計：小川佳章）

V. 学会サイトについて

学会公式サイトでは、支部大会や国際大会のお知らせを掲載しております。

2024年度総会にて学会サイトのWordPressへの移行および「アーサー王伝説事典編」の新規開設が承認されたことにより、現在、今年度中の移行作業完了および「事典編」開設を目指して作業を進めております。つきましては、「事典編」の記事

執筆をご協力いただける会員を随時募集中です。

また、学会として確かな研究に基づいた情報を、今後さらにどのように発信していくとよいか、アイデアがありましたらお寄せください。

学会公式X（@inter_arthur_jp）でも、写本や映画、新刊など幅広い情報を随時発信中ですので、ぜひご覧ください。

学会公式サイト <http://arthuriana.jp/index.php>

学会公式X https://x.com/inter_arthur_jp

（Web委員長：田中一嘉）

VI. 第39回年次大会について

第39回年次大会は対面で開催されます。

（詳細は大会資料をご覧ください。）

日時：2024年12月6日（土）13:00 開会（開場
12:30）

会場：立命館大学朱雀キャンパス【2階203教
室】

大会費：1,000円（学生会員無料）

懇親会費：5,000円（学生会員2,000円）

VII. 研究発表・シンポジウム企画募集

日本支部では随時、支部大会での研究発表・シンポジウム企画を募集しております。ご希望・ご提案がございましたら庶務までお寄せください。
シンポジウムは同年7月末、研究発表は同年8月末を締切とし、時期に従って当該年度または次年度の大会に組み入れて参ります。

VIII. 会員名簿に関するお願い

名簿記載事項に変更があった場合は、速やかに庶務までお知らせください。なお会員に配布される名簿に関しては、一部の事項（所属・住所・電話／ファックス番号・メールアドレス）を未掲載にすることも可能です。ご希望がございましたら事務局までお申し出ください。

IX. 文献情報

ここには、当学会会員であるか否かに関わらず、国内で出版されたものを中心に西洋中世文学関連の刊行物を紹介しています。

英文学（書誌担当：杉山ゆき）

<研究（編著書内の分担執筆）>

小宮真樹子「『イッツ・オンリー・ア・モデル』
モンティ・パイソンの描いた中世の魅力」『映
画で味わう中世ヨーロッパ：歴史と伝説が織り
なす魅惑の世界』図師宣忠編著（ミネルヴァ書
房）2024年、pp. 97-117.

杉山ゆき「女性と子どもの教育」『西洋中世文化
事典』（丸善出版）2024年、pp. 344-45.

松本涼、小宮真樹子「西洋中世と日本のサブカル
チャー」『西洋中世文化事典』（丸善出版）
2024年、pp. 564-67.

<研究（雑誌・研究紀要等）>

上石実加子「テニスンのアーサー王物語詩『シャ
ロットの乙女』における色彩とウォーターhaus
の絵画表現（1）：愛と死の表象」『駒澤大学文
学部研究紀要』（駒澤大学文学部）82号、2025
年3月、pp.1-11.

KAITSUKA, Yasuyuki, « Notes on *The Awntyrs
off Arthure* »『千葉商科大学紀要』（千葉商科大
学国府台学会）62巻、2025年3月、pp. 123-133.

唐澤一友「アングロ・サクソン時代の危機管理：古
英語の wisdom poetry を手掛かりに」『西洋中
世研究』（西洋中世学会）16号、2024年、
pp.16-28.

後藤美映「愛を語るというタブー：ダンテとロマ
ン主義の詩における言葉を語ることの意義」
『福岡教育大学紀要』（福岡教育大学）74号
(第一分冊) 2025年5月、pp. 27-37.

後藤里菜「女性と身体という危機：12世紀の敬虔
な女性、マーキエイトのクリスティーナ（1096
頃-1155頃）を題材に」『西洋中世研究』（西
洋中世学会）16号、2024年、pp. 56-69.

白井菜穂子「古英詩 *The Panther* における感覚的
表現のリアリズム」『文化学園大学紀要』（文
化学園大学）56集、2025年3月、pp. 65-69.

杉山ゆき「15世紀一般信徒の家庭での〈聖なる読
書（lectio divina）〉：Robert Thorntonの靈的
よろこびの探求と *The Abbey of the Holy Ghost*」
『人文学報』（東京都立大学人文科学研究所人
文学報編集委員会）521-13号、2025年、pp.
21-40.

- 杉藤久志「詩人チョーサーと愛の寓意」
Soundings (サウンディングズ英語英米文学会) 50号 (小野昌先生追悼号; シンポジウム 作家にとっての自己: 中世から現代まで) 2024年、pp. 99-101.
- 永井一郎「中世ウェールズの旅人と客人接待」『國學院經濟學』(國學院大學經濟學會) 73卷(1)、2024年9月、pp. 49-74.
- 平山直樹「中世英語(1100年~1500年)に見る口語表現」『尾道文学談話会会報』(尾道市立大学芸術文化学部日本文学科) 15号、2025年2月、pp. 11-28.

<翻訳>

ジェフリー・オヴ・モンマス (瀬谷幸男訳) 『ブリタニア列王史: アーサー王ロマンス原拠の書』(筑摩書房) 2025年、512p. 翻訳底本: Neil Wright ed., *The Historia regum Britannie of Geoffrey of Monmouth* 1 Bern, Burgerbibliothek, MS. 568. Cambridge, D.S. Brewer, 1984. ※南雲堂フェニックス 2007年刊の単行本文庫化

<書評>

岡崎敦「書評:『修道制と中世書物: メディアの比較宗教史に向けて』大貫俊夫・赤江雄一・武田和久、苅米一志編、八坂書房、2024年」『西洋史学論集』(九州西洋史学会) 62号、2025年、pp. 67-70.

ONUMA, Yu 「書評 : Emily Steiner. *John Trevisa's Information Age : Knowledge and the Pursuit of Literature, c. 1400* (Oxford, Oxford University Press, 2021)」*Studies in medieval English language and literature*, 39号、2024年7月、pp. 37-41.

TAKAGI, Masako 「書評 : Michelle R. Warren. *Holy Digital Grail : A Medieval Book on the Internet* (Stanford, Stanford University Press, 2022)」*Studies in Medieval English Language and Literature*, 39号、2024年7月、pp. 21-24.

<その他>

*最終講義

辺見葉子 慶應義塾大学文学部英米文学専攻「トールキン、妖精、ケルト」2025年3月11日

独文・北欧文学 (書誌担当: 嶋崎啓)

<研究(単行本)>

- 石川栄作『ブリュンヒルデ: 伝説の系譜』(教育評論社) 2024年12月、256p.
- 菅原邦城『北欧神話入門』(日本アイスランド学会監修・補筆) (東京書籍) 2024年7月、384p.
- 菅原邦城『概説北欧神話』(ちくま学芸文庫) 2024年8月、420p. ※『北欧神話』東京書籍 1984年刊の文庫化

<研究(雑誌・研究紀要等)>

伊藤亮平「ミンネザングにおける婦人の名誉—「婦人の歌」を中心に」『日本独文学会研究叢書156 中世文学における婦人の名誉』2024年10月、pp. 27-37.

桑野聰「ハインリヒ獅子公と獅子紋章—ヴェルフエンの家紋誕生の探究」『郡山女子大学紀要』(郡山女子大学) 61集、2025年3月、pp. 153-169.

嶋崎啓「中高ドイツ語の *ére* 「名誉」の語義について」『日本独文学会研究叢書 156 中世文学における婦人の名誉』2024年10月、pp. 3-11.

寺田龍男「時代を異にする詩人による歌合の構想: 中世ドイツの『君主讃歌』と日本の『時代不同歌合』」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』(北海道大学大学院教育学研究院) 144号、2024年6月、pp. 135-158.

林邦彦「『マントのリームル』と『トリストラムとイーソッドのサガ』」『埼玉女子短期大学研究紀要』(埼玉女子短期大学) 51号、2025年3月、pp. 47-76.

林邦彦「トリストラムとイーソッドのサガ」『埼玉女子短期大学研究紀要』(埼玉女子短期大学) 51号、2025年3月、pp. 99-133.

松原文「『パルチヴァール』における女性の「名誉」」『日本独文学会研究叢書 156 中世文学における婦人の名誉』2024年10月、pp. 12-26.

村松綾「中世ヨーロッパの祭礼行列: 君主の入市式 *adventus regis*」『金沢美術工芸大学紀要』(金沢美術工芸大学) 69号、2025年3月、pp. 43-69.

森下勇矢「道化服の機能: 『パルチヴァール』にみる愚の象徴」『西洋中世研究』(西洋中世学会) 16号、2024年、pp. 109-126.

渡邊徳明「過去半世紀における『ニーベルンゲンの歌』の作者性についての論争」『リュンコイスス *Lynkeus*』(日本大学文理学部独文研究室) 57号、2024年、pp. 1-24.

渡邊徳明「イゾルデの名誉と愛ートリスタンの刀の欠損部分の意味と媚薬の役割」『日本独文学会研究叢書 156 中世文学における婦人の名誉』2024年10月、pp. 38-54.

渡邊徳明「ベルヴェデーレ宮オーストリア絵画館における中世展示の変遷：ウィーンでの中世・ルネサンス美術作品の位置づけをめぐり」『桜文論叢』（日本大学法学部機関誌編集委員会）111巻、2025年3月、pp. 63-79.

<翻訳>

ゲルト・アルトホフ（桑野聰訳）「「デモンストレーションと演出：ヨーロッパ中世の公共圏におけるコミュニケーションのルール(1)」『郡山女子大学紀要』（郡山女子大学）60集、2024年3月、pp. 191-208.

ゲルト・アルトホフ（桑野聰訳）「「デモンストレーションと演出：ヨーロッパ中世の公共圏におけるコミュニケーションのルール(2)」『郡山女子大学紀要』（郡山女子大学）61集、2025年3月、pp. 171-182.

ポール・ヴァルター（飯尾圭司・加納修訳）「中世初期ヨーロッパにおける「出自神話」の意義」『史苑』（立教大学史学会）85巻(1)、2025年1月、pp. 155-178.

アイルハルト・フォン・オーベルク（石川栄作訳）『トリリストラントとイザルデ』（講談社）2025年6月、344p.

ナイトハルト・フォン・ロイエンタール（伊東泰治・馬場勝弥・小栗友一・有川貫太郎・松浦順子訳）『ナイトハルト歌集：中世ドイツ叙事詩の怪作』（鳥影社）2025年8月、452p.

ヴォルフラム・フォン・エッシエンバハ（小栗友一監修・訳、伊東泰治・馬場勝弥・有川貫太郎・松浦順子による共訳に基づく）『ティトウレル 抒情詩』（鳥影社）2024年3月、475p.

<書評>

松本涼「書評：『北欧中世史の研究：サガ・戦争・共同体』阪西紀子著、乃木書房、2022年」『西洋史学』（日本西洋史学会）278号、2024年、pp. 178-80.

仏文文学（書誌担当：竹田千穂）

<研究（単行本）>

蔵持不三也『愚者と民衆文化 中世フランスの歴史人類学』（柊風舎）2024年10月、324p.

<研究（編著書内の分担執筆）>

図師宣忠「〈中世映画〉の幕開けとジャンヌ・ダルク：語り継がれる史実とフィクション」『映画で味わう中世ヨーロッパ：歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』図師宣忠編著（ミネルヴァ書房）2024年、pp. 10-31.

武藤奈月「古典古代の受容」『西洋中世文化事典』（丸善出版）2024年、pp. 354-355.

渡邊浩司「アーサー王物語群」『西洋中世文化事典』（丸善出版）2024年、pp. 372-373.

横山安由美「中世ロマンスにおける魔術—「思いもよらぬこと」を思う」『西洋文学にみる魔術の系譜』（小鳥遊書房）田中千恵子編、2024年、pp. 83-97.

<研究（雑誌・研究紀要等）>

今井澄子「疫病と美術：14・15世紀フランスとネーデルラントの物語表現を中心に」『西洋中世研究』（西洋中世学会）16号、2024年、pp. 95-108.

岡田真知夫 ブログサイト ISLE D'avalon に掲載した記事。

<ポルトガル語（古語）における単数の tu と vós の使い分け> [2024.4.5]

- 用例をポスト流布版『聖杯探索』とそのポルトガル語訳 A Demanda do Santo Graal から拾う。

<中世フランス文学読書会のご案内> [2025.6.15]

- 2025年8月からマリ・ド・フランスの『寓話集（イゾペ）』を読み始めること。40篇の対照表。

<レオナルド・ダ・ヴィンチの「寓話」と「童話」> [2025.8.4]

- 動物誌の伝承、レオナルドの「手稿」、B.ナルディーニによるその「解釈・転写」、西村・渡辺によるその「童話」化。

<マリ・ド・フランス『寓話集』の挿絵と朗読> [2025.8.31]

- 挿絵が見られる4写本。F.モルヴァンによる現代語韻文訳とコメディー・ランセーズの女優さんたちによるそのテキストの朗読（レも含む）。

黒岩卓「二十世紀の日本における『ローランの歌』の少年少女向け翻案・紹介」『文化』（東北大文学学会）87巻(3・4)2024年3月、pp. 1-13.

小梁吉章「中世ブルゴーニュの蛮族法と慣習法」『広島法科大学院論集』（広島大学法学会）21号、2025年3月、pp. 145-213.

後藤里菜「西洋中世の羞恥：羞恥の系譜と12・13世紀の展開をめぐって」『西洋史研究』（西洋史研究会）53号、2024年、pp. 96-114.

瀬戸直彦「ギヨーム・カテルとトルバドゥールのC写本：17世紀トゥルーズの所蔵者について」*ETUDES FRANÇAISES*（早稲田大学文学部フランス文学研究室）32号、2025年3月、pp. 1-25.

高木麻紀子「西洋中世末期のタピスリーにおける鷹狩り図像の変遷：『15世紀トゥレーヌにおける王家のたのしみ』展を機に」『明治学院大学教養教育センター紀要：カルチュール』（明治学院大学教養教育センター）18巻、2024年3月、pp. 197-212.

NISHIMAGI, Shin, « Fragments notés des manuscrits de la collection Naitō au Musée National d'Art Occidental à Tokyo »『エクフライシス：ヨーロッパ文化研究』（早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所）15号、2025年3月、pp. 79-102.

武藤奈月「過去、現在、未来：12世紀における墓」『フランス語フランス文学研究』（日本フランス語フランス文学会）127巻(0)、2025年、pp.47-61.

横山安由美「シャルル・ドルレアンにおける他者なき「老い」」『立教大学フランス文学』（立教大学フランス文学研究室）54号、2025年、pp. 71-86.

渡邊浩司「『フロリヤンとフロレット』におけるゴーヴァン」『仏語仏文学研究』（中央大学）57号、2025年2月、pp. 1-36.

<翻訳>

フィリップ・ヴァルテール（渡邊浩司・渡邊裕美子訳）「中世のメルラン伝説におけるドラゴン」『中央評論』（中央大学）76巻3号（通巻第329号）、2024年10月、pp. 139-151.

フィリップ・ヴァルテール（渡邊浩司・渡邊裕美子訳）「女神がとる異類の身体—メリュジーヌとトヨタマヒメ（1）」『中央評論』（中央大学）77巻1号（通巻第331号）2025年5月、pp. 232-242.

フィリップ・ヴァルテール（渡邊浩司・渡邊裕美子訳）「女神がとる異類の身体—メリュジーヌとトヨタマヒメ（2）」『中央評論』（中央大

学）77巻2号（通巻第332号）2025年7月、pp. 87-95.

フルール・ヴィニュロン（渡邊浩司・渡邊裕美子訳）「シャルル・ドルレアンと聖ヴァレンタイン祭」『中央評論』（中央大学）76巻4号（通巻第330号）2025年2月、pp. 117-125.

イエレ・ハーメルス他編（青谷秀紀訳）『女の顔をした中世』（八坂書房）2025年5月、358p.

コリンヌ・ピエールヴィル（渡邊浩司訳）「メルランからメルロヘー13世紀と14世紀の韻文短編物語群における魔術師の変貌」『仏語仏文学研究』（中央大学）第57号、2025年2月、pp. 79-108.

<書評>

渡邊浩司「ジョエル・トマ、フィリップ・ヴァルテール校訂・現代仏語訳・注釈『ルーオトリー 11世紀・ラテン語の民話』」『中央評論』（中央大学）76巻3号（通巻第329号）2024年10月、pp. 212-218.

<その他>

*最終講義

瀬戸直彦 早稲田大学文学部フランス語フランス文学コース「フランス中世写本のヴァリアントに魅せられて」2025年2月26日

*企画展紹介

渡邊浩司「中世ヨーロッパ最大のファンタジー＜アーサー王物語＞を原典で読む」『MyCul』（中央大学図書館広報誌）45号、2025年、pp. 2-4.

*講演会通訳

渡邊浩司「ジャクリーヌ・ルクレール＝マルクス＜西洋古代・中世の神話・文学・図像に描かれたセイレーン＞」中央大学人文科学研究所主催講演会、中央大学多摩キャンパス Forest Gateway Chuo F310教室、2024年12月21日

中世ラテン文学・イタリア文学・その他

<研究（単行本）>

小澤実（監修）『ヴァイキング解剖図鑑：中世ヨーロッパを席巻した「海の霸者」』（エクスナレッジ）2025年6月、140p.

駒田亜紀子監修『内藤コレクション写本カタログレゾネ：国立西洋美術館所蔵（Manuscript Leaves in the Naito Collection, The National Museum of Western Art: A Catalogue

- Raisonné)』(国立西洋美術館：西洋美術振興財団) 2024年6月、477p.
- 中田明日佳・内藤裕史・駒田亜紀子監修『文字と絵の小宇宙：国立西洋美術館所蔵 内藤コレクション写本リーフ作品選 (Microcosms of Words and Images : Manuscript Leaves from the Naito Collection in the National Museum of Western Art)』(国立西洋美術館：西洋美術振興財団) 2024年6月、94p.
- 岡師宣忠・中村敦子・西岡健司編『史料と旅する中世ヨーロッパ』(ミネルヴァ書房) 2025年4月、264p.
- 村上寛『ラテン語の世界史』(筑摩書房) 2025年6月、304p.

<研究（雑誌・研究紀要等）>

- 有田豊「イタリアにおける宗教的多様性：ヴァルド派の歴史とプロテスタント思想の普及」『日伊文化研究』(日伊協会) 63号、2025年3月、pp. 31-41.
- 安藤さやか「ヨーロッパ初期中世のモノグラム：彩飾写本のイニシャル・ページの研究」『長岡造形大学研究紀要』(長岡造形大学) 22号、2025年3月、pp. 43-49.
- 上尾信也「声の復権：中世ヨーロッパにおけるナラティヴの記譜と流布」『桐朋学園大学研究紀要』(桐朋学園大学音楽学部) 50巻、2024年10月、pp. 35-54.
- 嶋田紗千「聖シメオン・ネマニヤの三つの側面：中世セルビアの聖人像」『エイコーン：東方キリスト教研究』(東方キリスト教会) 54号、2025年8月、pp. 23-41.
- 三浦清美「『府主教キプリアンの修道院長セルギイとフェオドルへの書簡』翻訳と注釈：中世ロシア文学図書館 XXVII」『ロシア文化研究』(早稲田大学ロシア文学会) 32号、2025年3月、pp. 83-95.

三浦清美「デヴゲーニイの事績：中世ロシア文学図書館(XXVIII)」『エクフラシス：ヨーロッパ文化研究』(早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所) 15号、2025年3月、pp. 53-73.

山田慎太郎・小川潤・大向一輝「ChatGPTを用いた人名・地名エンティティの自動抽出：生成AIを活用した中世アイスランド・サガの知識グラフ構築にむけて」『じんもんこん 2024 論文集(情報処理学会)』2024年11月、pp. 329-334.

<翻訳>

キャスリーン・ウォーカー＝ミークル(堀口容子訳)『中世イスのくらし：装飾写本でたどる』(美術出版社) 2025年2月、96p.

ロザリー・ギルバート(村岡優訳)『中世ヨーロッパの女性の性と生活』(原書房) 2025年2月、388p.

ルーシー・フリーマン・サンドラー(加藤磨珠枝監修、立石光子訳)『写本に描かれた本たち：西洋中世からルネサンスにみる本の象徴性と実用性』(白水社) 2025年8月、258p.

<翻訳>

(瀬谷幸男・松田章正訳)『ゴリアール派中世ラテン詩歌集』(論創社) 2025年2月、328p.

<書評>

諫早庸一「書評：『チンギス・ハンからタメルランへ：再び目覚めるモンゴルのアジア』ピーター・ジャクソン著、イェール大学出版局、2023年」『北大史学』(北大史学会)64号、2024年12月、pp.112-120.

松本涼「書評：『北欧中世史の研究：サガ・戦争・共同体』阪西紀子著、刀水書房、2022年『西洋史学』(日本西洋史学会) 278号、pp. 178-180.

編集・発行

国際アーサー王学会日本支部事務局

〒603-8577

京都市北区等持院北町56-1 立命館大学衣笠キャンパス

文学部事務室 岡本広毅

Email: office@arthuriana.jp

メールリスト：members@ml.arthuriana.jp

学会ウェブサイト：<http://www.arthuriana.jp/index.php>